第10回 全単位PTA会長研修会

喜びにつながる活動を

今を見つめ 私たちで作るＰＴＡ

第10回全単位ＰＴＡ会長研修会が、7月30日㈯、大分県教育会館で開催された。テーマは「単Ｐ会長として見えてきたＰＴＡ～リーダーのススメ！会長って何するの？～」。330名が出席し、充実した会となった。

県内の386単位ＰＴＡ会長が一堂に会し、単位ＰＴＡの研修活動を推進し、組織の牽引役としての資質の向上を図ることを目的に毎年行われている。

開会に先立ち、来年10月に開催される九州ブロック研究大会おおいた大会に向けての決起集会を行った。

あいさつする疋田啓二県Ｐ連会長

続いて、疋田啓二県Ｐ連会長より開会のあいさつ。「ＰＴＡの基本は各学校のＰＴＡ活動である。活動内容は地域や学校によって様々ではあるが保護者一人ひとりの力で支えられている。県Ｐ連は『子どもたちのために』を合言葉にしているが、中でも安全・安心の確保を課題としている。そのための補償制度の推進に努めると共に各郡市Ｐ連、各単Ｐ、育友会を支援するお手伝いをさせていただきたい。また、来年の九州ブロック研究大会おおいた大会は、会員の心に残る大会にしたい」と語った。最後に、日本ＰＴＡより熊本・大分地震に寄せられた義援金への感謝のことばを述べた。

活動のヒントをつかむ

午前中の全体研修会では、疋田会長と担当する学校教育部会の川野雄一副部長が、今年度新たに作成された「ＰＴＡ会長研修資料」を参考に説明。単Ｐ会長としての役割や心構え、必要な知識を中心に、会員、学校、地域とのやりとりのコツなど、自らの体験談を交えながらアドバイスした。

「給食の導入、教科書の無償化など子どもたちの健やかな成長のためにＰＴＡが果たしてきた役割は大きい。会長は各単Ｐの現状をふまえ『子どもたちのためにＰＴＡができることは何か』を考え活動を牽引していく立場。この役割を生かして自分が目指すＰＴＡ活動に取り組んで欲しい。また、子どもたちを取り巻く環境が激しく変化しているなか、ＰＴＡ活動にも変化が求められている。規約を今の学校、今の子どもたちに合う内容に変えていくことも必要。ＰＴＡ活動に達成点はない。変化に対応した活動を再認識することの大切さを知って欲しい」と語った。

○会長が目指すＰＴＡ活動のイメージを明確にする

ＰＴＡ活動に対する課題意識を持ちイメージに近づける努力を。役員、会員へ考えを伝え検討する。スムーズな運営につなげるためには相互の理解が必要。

○学校と保護者の橋渡し役

保護者が学校に興味を持ち、学校に保護者の考えを理解してもらえるよう情報提供をしていく。学校と保護者、両方と密に話し合う場を持つ。

○率先して地域活動を

子どもは、家庭、学校だけで育つのではない。地域でも見守られ育っている。会長が地域とのつながりを大切にし、地域活動にも積極的に参加することで、地域への関心が高まり、保護者、子どもへの良いお手本になる。

同じ立場で考え模索する

グループ討議では、小学校（小中連携校含む）12、中学校6グループに分かれて各司会者のもと活発な意見交換がなされた。

グループ討議の様子

グループ討議
～内容は左記の通り・抜粋～

▼会長の心構えで大切なこと

活動を楽しめる環境づくりを大切に。学校・行事、地域との関わりなど色々なことを考慮する必要があるが、自分の子どもが通う学校をよくしたいという気持ちを忘れない。

▼ＰＴＡ活動への参加を促す

継続だけでなく時には改革も必要。多人数・少負担を目標にした活動を。参加しやすいという認識に持っていく。

▼父親部の活性化のために

作業と遊びを組み合わせて企画するのも有効。美化活動後のそうめん流しやプール掃除前の魚のつかみ取りなど。

▼若い世代の参加者を増やす

ＰＴＡや地域行事の楽しさを理解すれば積極的な参加につながる。参加しやすい参加したくなる活動を考える。

▼中学生と地域をつなぐ

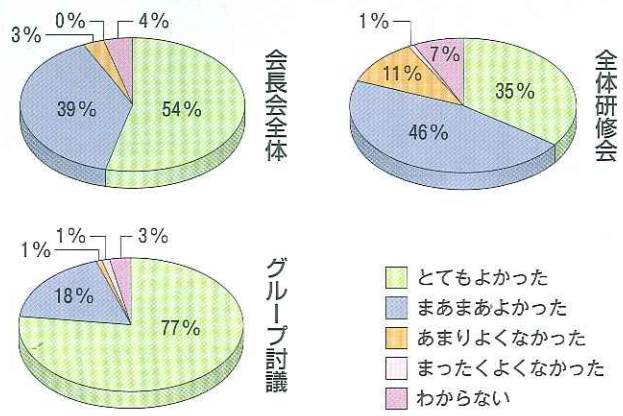
中学生は部活などで忙しく、休日などに行われることが多い地域行事に参加しづらい。生徒会活動で地域に関わる活動があると地域と関われる機会が増える。

▼ＰＴＡ会長決めの工夫

各活動を把握するなど覚えることも責任も大きい会長。会長一年、翌年顧問として残ると引継ぎもスムーズ。

単Ｐが抱えている課題を通して、単Ｐ会長として今何ができるかを考え、これからのＰＴＡ運営に何が必要か再認識させる有意義な会となった。

事後アンケートの結果



意見・要望 など

○初めて参加したが、会長としてとても参考になった。
○たくさんの会長と知り合いになって良かった。
○会長としての役割・位置づけを確認することが出来た。
○今後のＰＴＡ活動に関わっていく上で参考になった。
○グループ討議が充実し、他校の考え（方向性）、取り組みがわかった。
○単Ｐの活動実践が聞けてとても勉強になった。

大分県ＰＴＡ
はぐくく美

発行所
大分市大字下郡496-38
大分県教育会館2F
大分県ＰＴＡ連合会
☎(097)556-9055
責任者
疋田啓二
印刷所
大分市下郡3154の22
九州凸版印刷株式会社

子どもが輝くＰＴＡ活動を目指して
http://www.oita-pta.com/

九州ブロック研究大会「おおいた大会」を平成二十九年度に開催します

研北心

▲本紙321号、26年12月刊の本欄に「明治5年開校という日本屈指の古い荷揚町小を源流とする4校（中島小、住吉小、碩田中と）である。日本屈指といわれる新しい小中一貫校の歴史を創造していただきたい」とエールを送っていた。いよいよ新年度開校を前に大分市、市教委、各校とＰＴＡとも閉校の諸行事が開催されている▲11月20日「荷揚町小ふれあいＰＴＡ」に参加した。そこで配布された記念の団扇についての思い出と感想を。表面は校庭の黄葉樹、白亜の校舎、青い空の写真の上に透かしで校歌（120周年記念誌の私の筆文字）が印刷されてある。裏面は「荷揚町子どもの歌」「荷揚っ子音頭」が丸ゴチ体活字でプリントされてある。音頭は1985年製作、作詞は山本順子（現在は中村姓、大分市住）さん。5、6年担任のご縁から招かれたのです。この面のバックの図柄がいい。何万人が踏みしめたであろう階段とその昇りの先きに明るく光る窓がある。この図柄から143年の歴史と将来への希望を抱くのは私一人ではないと思う▲音頭に4番が補遺された。「ハー／春夏秋冬過ごした荷揚／思い出たくさんありがとう／ソレ／中島住吉友達増えて／みんな今度はみんな碩田学園へ」。児童生徒はもとより4校ＰＴＡ、保護者の方々へ新学園のご発展を祈り、不変無限のご支援をお願い申し上げます▲「つながろう、荷揚っ子最後の一年輝こう」の児童作の懸垂幕の下、在校生とＰＴＡが、音頭を、それこそふれあって踊る笑顔を見ながら歴史や伝統を創るのは人なのだとつくづく思った。

指定研究発表会

共に学び 共に育つ

平成27・28年度の2年間にわたり、県ＰＴＡ連合会指定研究に取り組んできた3校の研究発表が行われた。家庭・学校・地域が連携することを重要視し、子どもを中心として地域の特色を生かした活動の発表となった。2年間の継続的研究の成果が披露され、多くの参加者に感銘を与えた大会となった。

豊後高田市立真玉中学校ＰＴＡ　11月13日
未来へつなぐ地域の宝

豊後高田市立真玉中学校ＰＴＡ（生徒数66名、会員数60名）は「『心豊かで、主体的に学習に取り組む生徒の育成』～学校・家庭・地域が連携して～」を研究主題に公開発表を行った。

地域の魅力を再発見

午前中の公開授業は、文化祭で発表するプログラムごとに全校生徒が「縦割り班」で活動した。プログラムの多くは地域の方が指導する。

真玉歌舞伎では「白浪5人男」の長い口上や型を練習。保存会の方は「子どもたちへ教え始めて10年経つ。この活動で真玉歌舞伎が若い世代へ継承され地域で活躍する人材が育ってくれると嬉しい」と熱く語った。開会行事に先立ちオープニングでも披露された真玉歌舞伎。堂々とした演技で会場を大いに湧かせた。

真玉中学校「真玉歌舞伎」
日本駄右衛門、弁天小僧菊之助などおなじみの人物が登場

地域の特産物であるそばに触れる授業も行われた。種を蒔くところからスタートし66日かけて120kgのそばを収穫。授業では、そのそばを使いそば打ちに挑戦した。指導するのは地域のそば道場の方。温かいそばを参加者にふるまい、そば作りは最終段階。一連の活動を文化祭で発表する。

絵手紙は野菜や果物を題材に思いが伝わる手紙を描く。味のある描線と色使いに苦戦する生徒の話を講師の方が聞く。和やかな授業風景だった。

書道パフォーマンスでは大筆を振るう力強い姿を披露。文化祭の本番に向け相談し合いデザインを練った。まだ試作の段階。完成形が楽しみだ。

ダンスはチームに分かれ5曲を披露した。生徒は「真玉中にはダンス部がないので挑戦できてうれしい。文化祭が楽しみ」と笑顔で話した。

楽器演奏では地域の演奏家からかりているスチールパンを中心に曲を演奏。聞きなれない不思議な音色を生かした話題の曲に挑戦する。

気持ちをこめて美味しさアップ

演奏方法に興味津々

地域の力と実現させる力

午後からの研究主題による全体発表では、初めに実行委員会、専門部の活動を報告。続いて実践報告が行われた。「家庭学習の時間確保を目標に取り組んだノーメディアデーは、各家庭の生活習慣の多様化が課題となり1年目は成果を得られなかった。2年目は実態調査をもとにＰＴＡと生徒会が一緒に活動。生徒の意識が高まり、ＰＴＡの呼びかけに応えた各家庭での協力が進んだ。この取組は2年間かけて今ようやくスタート地点。今後も続けていく方針。また地域の人材を活用した取組を通して、地域を知り地域を誇りに思う子どもや保護者が増えてきた。子ども、保護者、地域の人とのつながりを実感している」と発表した。

須股恵美子県教育庁社会教育課主任社会教育主事は「自分で選択、決定する力を培う取組を可能にした地域の力と実現させるＰＴＡの皆さんの努力は大人のやる気を見せる良いお手本。協力し合う中で地域に対する安心感と誇りを得られたことは素晴らしい」と指導講評した。

臼杵市立臼杵小学校ＰＴＡ　11月19日
地域と共に学び伝える防災

臼杵市立臼杵小学校ＰＴＡ（児童数278名、会員数200名）は「防災活動を通して人間育成をおこなう」～ＰＴＡ活動の活性化・地域との連携～を研究主題に公開発表を行った。

地域を繋ぎ世代を繋ぐ

公開活動では、地域の様々な方の協力のもとなかよし班と呼ばれる縦割班で「防災スタンプラリー」が行われた。

コスモス病院のスタッフによる「ＤＭＡＴってなにするひと？」では、食べ物・飲み物＝輪ゴム、ミルク＝ペットボトルのキャップ、おむつ＝乾電池に見立て、割り箸や爪楊枝、ストローを使い必要な人に必要なものを届けることの大切さを学んでいた。

日本赤十字社によるサポートプログラム「災害時の救護体験」では、トランクの中にぎっしりと詰められた災害救護用資機材等を紹介。子どもたちは、赤十字の仕事の重要性に理解を深めた。

真っ白で何も見えない

水を入れた消火器を勢いよく噴射

臼杵市役所の危機管理室による「毎日防災」では、今までに日本で起きた災害を示しながら、クイズ形式で防災に関する意識を高めた。

土木事務所による「土砂災害を学ぶ」ではダムや整備された健全な森林によって、土砂災害を防ぐことができることを模型を使って学んだ。

防災士と臼杵市立東中によるサポートプログラム「応急担架体験」では、洋服や毛布を利用した担架の作り方について、中学生が小学生に優しく丁寧に指導している姿がとても印象的だった。

父親たちのやっちゃろう会による「バケツお手玉リレー」では大きな声を出し、テンポ良くバケツリレーを行った。

運動場では、消防車や救急車の乗車体験、水を入れた消火器の噴射体験、天ぷら油の発火体験。特に煙体験では、真っ白の中では、上下左右を見失うことの怖さを体験していた。

防災はお作法である

午後の研究発表に先立ち、女性防災士による劇団「ひまわり一座」の寸劇に会場は和やかな雰囲気となった。

創立142年の臼杵小学校は、2011年の東北の震災から1年4ヶ月後に突然提案された「学校の移転問題」から防災教育が始まった。高台への移転を推進する行政に対して、ここから離れること＝子どもたちを守ることになるのかと疑問を感じた当時のＰＴＡ。多くの話し合いを重ね総会で決議。地域と共に防災活動を推進し、この地で子どもたちを育てていくことを選択した。

臼杵小学校が地域と共に行う防災減災活動は、子どもたちに大人の姿を見せていく決意を感じた発表となった。

須股恵美子県教育庁社会教育課主任社会教育主事は、「地域の宝は子どもたちだけではない。知識や文化を繋げていくことも地域の宝である。『防災はお作法である』の言葉にあるように、あたりまえとなるよう地域を巻き込んだ防災教育を行う臼杵小学校の発表は、その手本となる素晴らしいものだった」と指導講評をした。

Smile隊

「早速ですみません。県ＰＴＡ広報紙『はぐく美』の中に、『Smile隊』という会員の家庭内の和やかな話題などを掲載するコーナーがあり、その寄稿依頼が来ております」というメールをいただいた後、子どもたちにこの件を話し「お母さんとの思い出を1分以内で述べなさい」と子どもたちにフリました。

私には3人の息子がいます。来春社会人となる大学生の長男、今春他県に就職した次男、そして家族から溺愛されている中3の三男（本人には溺愛度は全く届いてない様子）

息子たちが声を揃え言ったことは「こんなフリ方をすること事態が和やかな話題やろ！」と。

息子たちから見た私は常に厳しく、この母に逆らったら怖い目に合うと思っていたようです。そう言われてみたら、とっくに思春期を過ぎた上2人の息子たちは反抗期など全くありませんでした。

溺愛中の中3の三男は「こんなに家族に優しくされているのに、僕がぐれたりしたら、お母さんが僕よりもっとぐれると思う。面倒だから…僕は今のまま過ごすよ」と言われてしまいました。本当に母親の私のことが怖いのかしらと、ここ数日の悩みの種です。

でもこの依頼のおかげで、息子たちとの生活を改めて振り返る時間を持てました。とても温かい気分です。

だんだんと大人になっていく息子たちを頼もしく感じていられる私はとても幸せです。

臼杵市ＰＴＡ連合会
母親部長　平山さつき

平成27・28年度　大分県ＰＴＡ連合会

広がる連携

大分市立住吉小学校ＰＴＡ　11月27日
つながる力で命を守る

大分県ＰＴＡ連合会指定研究は、昭和24年に県教委の指定で始まったが、他県にはない大分県Ｐ連の特色ある事業である。

大分市より１単位ＰＴＡと、県南・県北の各都市より２単位ＰＴＡを指定、２年間の研究の成果を公開発表し、今後のＰＴＡ活動の振興を図り、大きな成果をあげている。

避難場所や危険箇所を確認

住吉小学校「防災について学ぼう」

なかよし班の友だちとスタンプ押し

臼杵小学校「防災スタンプラリー」

大分市立住吉小学校ＰＴＡ（児童数２１４名、会員数１６０名）は、「『大切な命を守るために』～閉校する住吉小ＰＴＡ一人ひとりができること～」を研究主題に公開発表を行った。

一人ひとりが意識を変える

住吉小学校は、荷揚町小学校、中島小学校、碩田中学校とともに、平成29年4月、施設一体型小中一貫教育校「碩田学園」として開校する。海抜2メートルほどの住吉校区は、災害発生時には子どもたちの命を守るために地域との連携が欠かせないと考え、防災訓練に取り組んできた。

遊びの中で自然に覚える防災用語

午前中の公開活動では防災に関する授業を行った。

1年生は、班に分かれて防災かるた作りをした。子どもたちはかるたの色を塗り、保護者は防災に必要なことばを考えて読み札を作った。最後にかるた取りをして遊んだ。

2年生は身近な物を利用したエコグッズ作りに挑戦した。新聞紙を利用してスリッパとエコバッグを作った。「新聞紙だけで作れることに驚いた」「災害時、新聞紙は必要ですね」と保護者から感想が寄せられた。

3年生と5年生は日本赤十字社社員による防災授業を受けた。

3年生は「災害からの避難の仕方」というテーマで学んだ。参加した子どもが「津波が来たら声を出して逃げる」と発言したのをきっかけに、地域ぐるみで津波から逃れることができたという実際にあった事例を聞いた。

身近な物を材料にしてろ過装置作りに挑戦

5年生は「災害にそなえる」というテーマで学んだ。「災害時に何を持っていくか」「限られたスペースに何を入れるか」で班ごとに話し合った。「必要な物を選ぶのが難しかった」と参加した子どもから感想があった。

4年生は命を守るのに水が不可欠であることから、ペットボトル、小石、砂、活性炭などを使って泥水から飲み水を作る方法を学んだ。泥水は何度もろ過してやっと飲めるようになるとのことで、辛抱強く飲み水作りに取り組んだ。

6年生は、地域ごとの班に分かれて自治会の方の助言をもとに、避難マップ作りに取り組んだ。各班の発表を聞いて「家から離れた場所でも、どこに逃げたらいいのかがわかった」と感想があがった。

防災力は地域と共に

午後からの全体発表では、最初に専門部からの活動発表があった。続いて、子どもたちの大切な命を守るための保護者・学校・地域の取組について、引き取り訓練や避難訓練などの活動を紹介した。取組を通しての成果として、防災意識が高まった・地震措置の対応が協力してできた・自治会、老人会、婦人会との連携を図ることができた、ことなどが報告された。

宇都宮忠県教育庁社会教育課社会教育主事は「災害時、命を守るためにどうするか、物資の無い時にどうするか、いかに生活を立て直すかの3点をふまえて、発達段階に応じた学習に子どもたちが生き生きと取組めていた。ＰＴＡの子どもたちへの熱い思いが伝わってきた」と指導講評した。

徳島うずしお大会に参加して

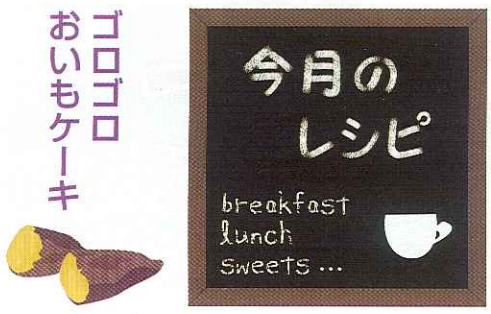
第64回 日本ＰＴＡ全国研究大会　第45回 日本ＰＴＡ四国ブロック研究大会

ＰＴＡ役員になってから四国に地域教育の研修に何度も参加して、「四国の教育は最先端をいってるな」と感じていたので、今回の大会も楽しみに参加させてもらいました。1日目の特別第一分科会では、コミュニケーションのあり方を学び、二日目の全体会では子どもたちの未来にいかに大人たちが寄り添っていくかを学びました。両日とも、親として、大人として、どう子どもたちに向き合っていくかを考えさせられる研修で有意義な時間を過ごせました。やはり、四国は教育に熱心な土地柄だと再認識させられました。

この大会に参加させてもらったことで、また、ＰＴＡというものが、どういう役割を担っているかを自分自身の中で幅広く考えるキッカケをいただきました。これからも、もっと一般会員の皆様にも広くＰＴＡの大会が意義のある大会であることを訴えていこうと思います。ありがとうございました。

大分市ＰＴＡ連合会
会長　分藤貴弘

ゴロゴロおいもケーキ



華やぐ季節の到来。イルミネーションで彩られた町に「あの季節がやって来たな」と実感する。家では、いつもと違った子どもたちの何かを期待するような眼差し…。プレゼント、ケーキ、それとも料理。むずかしいのは無理だけど、愛情だけはたっぷり込めて。温かいうちに、さぁどうぞ。

材料	さつまいも	600g～700g
	卵	3個
	バター	150g
	砂糖	130g
	Ⓐ 薄力粉	200g
	Ⓐ ベーキングパウダー	小さじ1
	（Ａを合わせてふるっておく）	

①さつまいもは、サイコロ状に切り、水にさらしておく

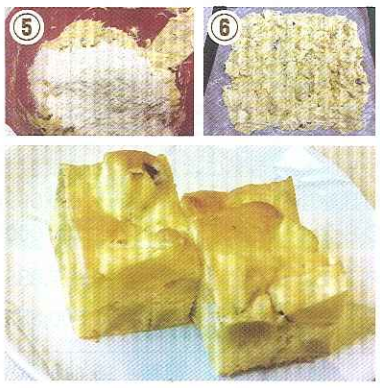
②型にオーブンシートを敷いておく

③ボウルにバターを入れ、クリーム状になるまで混ぜる

④砂糖を加え、溶き卵を数回に分けて混ぜ合わせる

⑤Ⓐを半分入れ、水切りしたさつまいもを合わせる。Ⓐの残り半分を粉っぽさがなくなるまで、さっくり混ぜる。

⑥オーブンシートに流し入れ、180℃のオーブンで35分焼く



第4回こども屋台選手権2016
―ちいき自慢、なかま自慢―

主催　ＮＰＯ法人　地域の宝育成支援センター
第4回　こども屋台選手権実行委員会２０１６

子どもたちの「いらんかぇ～」に誘われて

第4回こども屋台選手権が県Ｐ連他の後援により、12月4日(日)、会場を前回までのわさだタウンからＪＲ大分駅府内中央口広場に移し開催された。大分の玄関口での開催とあって多くの来場者でにぎわった。

今年は過去最高の25団体が出店。県内各地の小学生と監督役の大人がチームで屋台運営を行った。屋台には地域の特色を生かしたメニューが並び、ステージ上では子どもたちが自らＰＲを行った。社会と集団で生きる自覚を育み、就労体験の中で大変さと楽しさを学ぶ。やりとげた子ども達の笑顔が眩しかった。

県Ｐ会長賞受賞の中津っ子のお店

グランプリ
魚の楽園！　蒲江西野浦（西浦小学校）

準グランプリ
豊府っ子ぽっかぽっかだんご汁屋（豊府小学校ＰＴＡ父親の会Ａ）

３位
国東丸～姫だこライスコロッケ（国東市立国東小学校ＰＴＡ有志）

県Ｐ会長賞
からあげ大好き中津っ子のお店（中津市立北部小学校児童）

（他13団体入賞）

第61回九州ブロックＰＴＡ研究大会 みやざき大会

「未来の宝　みんなで育て、みんなで育つ～人がつながる、想いがつながる、子どもたちの未来へつながる～」を大会スローガンに第61回九州ブロック研究大会が10月29・30日に開催された。九州各県より8175名（大分県からは686名）が参加した。

第1分科会 組織・運営〔活性化〕 豊後大野市立大野小学校ＰＴＡ

「『つながり』をキーワードにして組織強化をはかるＰＴＡ活動」を研究テーマに佐藤信幸Ｐ会長が提言発表を行った。児童139名・ＰＴＡ会員98家庭で活動を行う。

1年で役員を入れ替える取り決めにより、活動をつかめないまま次の役員へ引き継ぐ難しさを感じると課題をあげた。そのような中でも会員が地域を巻き込みながら力を合わせやり遂げる心意気を感じる発表となった。

助言者の須股恵美子県教育庁社会教育課主任社会教育主事は「ＰＴＡ活動は人権である。地域と共に子どもを育てる力となる喜びを感じること。活動の中で他人の子どもも一緒に地域で育てていくことである」と結んだ。

第1分科会での発表の様子

第3分科会 コミュニティ形成・連携強化・広報活動 竹田市立久住中学校ＰＴＡ

「家庭・地域・学校ぐるみで『心の豊かな子ども』を育てるＰＴＡ活動」を研究テーマに工藤一雄Ｐ会長が提言発表を行った。

「本校は非常に小規模。しかし保護者の前向きな理解があり、積極的な参加で多くの活動が支えられている。その中で保護者の意見をきっかけに、昨年より専門部活動から全Ｐ家庭で取り組むことになった街頭指導は、保護者同士のつながりを深め、地域の方との交流にも役立っている。今後も各家庭や地域へ情報発信を続けながら連携を強化したい」と報告。

第3分科会で発表する工藤ＰＴＡ会長

討議では地域の方と連携する方法などについて熱心な意見交換が行われた。

助言者の高山浩昭豊後大野市立菅生小学校長は「地域の方を巻き込んだＰＴＡ活動が展開されている。家庭だけでなく地域と情報を共有し地域の中の学校という認識が強いつながりを生む」と講評した。

2日目はシーガイヤコンベンションセンターで全体会。

来年の九Ｐおおいた大会に向け、ピンクのジャンパーを着用した大分県のキャラバン隊は同色ののぼりを掲げ、全員で元気なアピール活動を行った。次期開催地として大分県の会員は大会の成功を祈り心をひとつにした。

第62回日本ＰＴＡ九州ブロック研究大会 おおいた大会

分科会　平成29年10月21日
全体会　平成29年10月22日

大会スローガン
ともにつながり育て合おう！
光り輝く地域の宝のために
～ＰＴＡ・協育・こどもの未来～

分科会・全体会

分科会	分科会研究領域	会　場
第１分科会	組織・運営	別府市　ビーコンプラザ フィルハーモニアホール
第２分科会	研修・啓発活動	宇佐市　宇佐文化会館
第３分科会	コミュニティ形成・連携強化・広報活動	中津市　中津文化会館
第４分科会	健全育成・体験活動	大分市　コンパルホール
第５分科会	児童生徒支援・学校支援	大分市　iichiko音の泉ホール
第６分科会	教育問題（小学校）	臼杵市　臼杵文化会館
第７分科会	教育問題（中学校）	佐伯市　佐伯文化会館
第８分科会	人権教育・特別支援教育	大分市　大分県教育会館
第９分科会	ネットモラル・メディアリテラシー	大分市　ホルトホール大分
特別分科会		大分市　iichikoグランシアタ

全体会	別府市　ビーコンプラザ

おめでとうございます 平成28年度 優良ＰＴＡ 功労者表彰

文部科学大臣表彰
国東市立富来小学校ＰＴＡ

日本ＰＴＡ会長表彰
〈団体〉
大分市立大在小学校ＰＴＡ
豊後大野市立朝地小・中学校ＰＴＡ
〈個人〉
宮崎　香織（大分市）

第38回全国小・中学校ＰＴＡ広報紙コンクール表彰
〈教育家庭新聞社　社長賞〉
佐伯市立鶴谷中学校育友会「夢つるや」
〈佳作〉
佐伯市立鶴岡小学校ＰＴＡ「広報つるおか」

子そだて チョコっと ひとこと —sweet & bitter—

温かい眼差しに心がよろこんで

あたたかい風に撫でられたくて、柴田トヨさんの詩集「くじけないで」を手に取った。92歳で詩作を始め、98歳で書きためていた詩を集めて出版した。その中の「化粧」。

倅が小学生の時／おまえの母ちゃん／きれいだなって／友達に言われたと／うれしそうに／言ったことがあった／それから丹念に／九十七の今も／おつくりをしている／誰かに／ほめられたくて

母親のトヨさんは、倅の健一さんが友だちから受けた喜びに重ね合わせて、日々、紅をさすおつくりで応えている。

一〇一歳で亡くなられたトヨさんの心の肌理が、今も、眩しくて消えない。

―手鏡のなかの私が／輝いている―　（「幸せ」）
―私は／人から／やさしさを貰ったら／心に貯金しておくの―　（「貯金」）
―私／辛いことが／あったけれど／生きていてよかった／あなたもくじけずに―　（「くじけないで」）

温かい風を探していたが、人生を丁寧に味わい尽くされたトヨさんの詩には、生易しい風は探してもみつからなかった。代わりに、温かい眼差しにあたためられていた。

「ありがとう」を心に貯金してみようか。次に、トヨさんに会うまで貯まるかな。

立ちどまらない保険。MS&AD 三井住友海上
三井住友海上の安心 GK
www.ms-ins.com

大分県ＰＴＡ連合会補償制度

平成29年度の学生・こども総合保険は、補償内容を充実、パワーアップして平成29年２月１日より募集開始します。

申込期間：平成29年２月１日～平成29年３月31日
補償期間：平成29年４月１日～平成30年４月１日

保険にかかるお問い合わせ
〈取扱代理店共同募集〉
はぐく美保険サービス株式会社
大分市大字下郡496-38　大分県教育会館２Ｆ
0120-56-8993（コール ハグクミ）
（受付時間：月～金　9:00～17:00）

事故にあわれた時のご連絡先
24時間365日事故受付サービス
「三井住友海上事故受付センター」
0120-258-189

MS大分中央株式会社　☎097-537-3700

県Ｐ情報

第25回大分県ＰＴＡ研究大会
中津地区豊後高田大会
1月29日(日)

はぐく美編集委員が加わりました
大久保　知世子（新）
廣瀬　多賀子（新）

編集後記

▼最近テレビ番組を見ていない。娘がネットで興味のある映像を検索し視聴するためだ。子どもの流行には敏感に、大人の流行には鈍感に。（Ｙ・Ｏ）

▼防災学習を見学し慌てて我が家の防災対策を見直してみた。余りにも足りなかったと深く反省。気づいたことから始めたい。（Ｃ・Ｏ）

▼中２病。私にもあったかと母に尋ねる。それなりにとの返答。真只中の次男が親となり「それなりに」と答える日が今から待ち遠しい。（Ｈ）

熊本・大分地震に伴う義援金をいただきました

５月１日　募金活動により	331,271円	日本ＰＴＡへ送金
宇佐市高家小ＰＴＡより	50,000円	
県ＰＯＢ会より	30,000円	
日本ＰＴＡより	13,917,985円	該当する郡市Ｐ連に配布しました
全国各地区ＰＴＡ連合会より（岩手県Ｐ連・徳島県小松島市Ｐ連）	1,500,863円	
総額	15,418,848円	